

研究授業「子ども研究」の実施

田中弓子¹

Enforcement and Reflection of an Open Class “Childhood Research”

Yumiko Tanaka

要約

本稿は平成22年(2010)度第2回保育学科研究授業の実施報告である。当該授業科目(子ども研究)における本時のテーマを「子ども理解の方法(エピソード記録を用いて)」とし、講義を進めた。その他、受講生の理解を高める為の授業上の工夫も「春日の里の知恵袋－保育学科のティーチング・ティップス」を参考に行った。

キーワード：授業公開、研究授業

(Abstract)

This paper is the record of an open class performed in Department of Early Childhood Care and Education in the Takamatsu Junior College on November 8th, 2010. The main topic of this lecture was to discover the way to understand children. This plan refers to “Teaching tips” in the Department of Early Childhood Care and Education in the Takamatsu Junior College.

Keywords : open class, lesson research

はじめに

本稿は、平成22年度第2回保育学科研究授業「子ども研究」の実施報告である。
保育学科では、平成21年度にこれまでに実施した研究授業の蓄積に基づき「春日の里の

¹ 提出年月日2011年6月30日、高松短期大学保育学科講師

知恵袋—保育学科のティーチング・ティップス」を作成、公開した。この資料を参考に、授業者も様々な点で授業改善に取り組みつつ、本研究授業を迎えた。

1. 研究授業の日程

(1) 研究授業

日 時：平成22年11月8日（月）第2校時（10:40-12:10）

場 所：本学2号館 2105-6講義室

科 目：子ども研究

担 当：田中 弓子

受講生：本学保育学科1年次生（74名）

(2) 授業検討会

日 時：平成22年11月8日（月）第5校時（16:20-17:50）

場 所：本学2号館 2201演習室

2. 「子ども研究」の基本的性格

保育学科において「子ども研究」は、「幼稚園教諭二種免許状（「教職に関する科目」区分内における「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」）取得のための必修科目である。また、「保育士資格（保育の対象の理解に関する科目）」取得のための選択必修科目である。さらに、保育学科では、子ども研究を保育実習Ⅰを受けるにあたって、事前に履修しておくべき科目に位置づけられる。

高松短期大学「履修ガイド（履修の手引・シラバス）」（2010）で、授業者は次のように子ども研究を紹介した。

子どもやその保護者を多方面から捉えることができるよう、子どもをとりまく状況について、その背景を踏まえながら進めていきます。また、時には子どもを直接観察したり、一緒に遊んだりすることにより、より一層子ども理解に努めることができるようにしたいと考えています。

子どもを見る目や子ども理解の方法を知り、子どもの成長発達や心の動きなどを積極的に学ぼうとする態度や実践的指導につながる能力を育成することを目指す。また、人によって様々な受け止め方があることに気づき、子どもの外に表れたものだけでなく、その内面を読み取ることに目向けようとする態度の育成も目指す。

3. 子ども研究における指導上のポイント―「春日の里の知恵袋―保育学科のティーチング・ティップス」を参考に―

3.1 受講生の現状

今年度に限られることではないが、実習において求められる服装・身だしなみなどのマナーを自覚し、行動に移すことのできない学生が増えており、本授業においても、このことを話題にして授業をすすめざるを得ない。

また、授業中の私語はほとんどないものの、居眠り（意欲喪失による居眠りも含む）が見られ始めた。入学段階から気になっていた学生に加え、新たに気になる学生が出現している。

さらに、子どもと触れ合う時間があれば、そこで学生自身で学び、実践力を高めていくことが理想である。しかし、本学学生の場合、「自ら学ぶ」ことが非常に難しい。つまり、観察参加実習におけるフォローアップ（子ども理解の深化を促す取り組み）を本授業で行わなければならない状況がある。

3.2 静粛な環境

研究授業実施年度、本授業担当者は、保育学科1年生の授業科目として、「子ども研究」「観察参加実習」「保育実習Ⅰ（事前事後指導を含む）」を担当している。よって週3回（4コマ）保育学科1年生と接している。よって、履修上の注意を全科目共通に行い、学生に注意を促している。主に、「遅刻・欠席の取り扱い」「携帯電話、飲食、私語の禁止」などである。また、授業時間中の机間巡視を心がけ、「学生が教員から見られている」という印象を持つことができるようにしている。

また、座席は指定しており、学生の状況を判断し、意図的なものである。ただし、明らかにその配慮が見える（学生が不快な思いをする）ことのないよう心がけている。

3.3 授業上の配慮

授業ワークシートを配布し、そこに教員の板書を書き込むよう指導している。学生に授業を受けた満足感を与え、必要事項が身につくように板書を行う。時間に制約がある場合、OHCに必要事項を提示し、また、学生の能力に鑑み、具体例を示し、視覚的、具体的に学生がイメージできるよう心がけている。しかし、具体例を示すことによる問題点がある。例えば、事例分析の単調化は、ジレンマを抱える。その単調化は、学生の状況判断力を削いでいるのではないかと危惧される状況にある。しかし、基礎さえできていないという実習園からの指摘を受ける現状もあり、指導上の難点である。

3.4 実践のフォローアップ

本授業は、授業ワークシートの最後にあるコメント欄に、授業に関連する「まとめ内容」「次回授業に関する内容」等を記入させている。よって、毎回コメントの課題は異なる。それを担当者は確認し、学生の学びを確認したり、前後の授業内容の関連を持たせている。また、その内容の代表的なものを次回授業で話題にし、学生のコメントに答えるようにしている。

さらに、レポート課題（個人観察）に関しても、目を通し、学生に返却する。学びに対するフォローアップを心がけている。

4. 子ども研究の講義計画と本研究授業の概要

4.1 子ども研究の講義計画

第1講（9月27日）オリエンテーション、子ども理解の必要性

第2講（10月4日）子ども理解に向けて—自身を見直そう—

第3講（10月12日）子ども理解に向けて—基本姿勢を身につけよう—

第4講（10月18日）子ども理解に向けて—保護者の現状—

第5講（10月25日）子ども理解の方法—観察記録を用いて—

第6講（11月8日）子ども理解の方法—エピソード記録を用いて— 本時（研究授業）

第7講（11月15日）子ども理解に向けて—保護者支援と子ども支援—

第8講（11月22日）子どもの育ちと人のかかわり①

第9講（11月29日）子どもの育ちと人のかかわり②

第10講（12月6日）子どもの育ちと人のかかわり③

第11講（12月13日）子ども理解のまとめ

第12講（12月20日）子ども理解の共有①

第13講（1月17日）子ども理解の共有②

第14講（1月24日）援助者としての保育者

第15講（1月25日）まとめ

4.2 本時の概要

本時は、「子ども理解の方法」の第2回目であった。以下、時間区分等については資料（本時指導案）を参照してほしい。まず、導入では、前講までに学習した「観察参加実習記録」の振り返りをした。保育を記録する形は多種あり、それぞれに目的と効果があることを知る、きっかけとした。

続いて、展開部分では、観察記録（集団記録）の対照となる個人記録（エピソード記録）の効果などを説明した。その後、エピソード記録の1事例を学生に紹介した。漠然とではあるが、エピソード記録の「見た目」を把握できるようにした。また、次に2つ目の事例（昨年度保育学科学生が作成したエピソード記録）を紹介し、学生は、エピソード記録が身近なものであり、保育学科学生であれば、作成できる（しなければならぬ）ことを認識しはじめた。その際、これまでの学びで何度も伝えていた、「子ども理解には自身が影響する」という部分の復習も行うことができた。

さらに、エピソード記録の作成方法を、3つ目の事例をもとに学習した。実際に作成するための段階を1つずつたどっている。学生が戸惑うことのないよう、またエピソードをとらえる視点が様々であることを、認識できよう工夫した。

この取り組みが、保育実践と関係を持ち、意欲的にエピソード記録執筆ができるよう、保育実習日誌および教育実習日誌を学生に提示した。ここには、個人観察記録を作成する欄があり、ここには、エピソード記録を作成することを伝えた。授業と実践の接点が見出しにくい学生が多いことを回避するための対応である。

最後に、エピソード記録の作成の諸注意および、次回授業の説明をし、終えた。

5. 研究授業を終えての省察

本稿を参観していただいた教員の方々による授業検討会での発言内容や参観記録に従えば、「講義の内容構成」、「授業ノートなどの教材準備・使用方法」、「環境構成」、「授業者の講話や板書」について、概ね肯定的な評価が確認される。授業者の言葉の癖やホワイトボードの使用法など、授業者自身が気づいていなかった授業上の知恵を改めて教えていただいた。

他方で、講義の改善に関するいくつかのご示唆を頂いたことも確認しておきたい。まず、一つ目は、余裕のある授業時間構成である。「板書と授業者の解説がほぼ同時進行であるため、学生の理解が追い付かないのではないか」といった意見である。しかし、学生の板書を写すスピードには個人差があり、授業者は1/3程度の学生が作業を終えた段階で、解説を加えている。また、板書そのものも具体的に記入しているため、学生が復習を行えば、フォローアップも可能と考えている。

二つ目は、ワークシートと板書の整合性である。ワークシート内に板書内容を書き留めるため、「学生の自主的なメモや、自主的なノートづくりができないのではないかと」といった意見である。保育学科学生の多くは、板書の書き取り（それも丁寧に書いたもの）はできるが、それ以外のメモをとる学生は難しい。そもそも本学入学までに、学習習慣を身につけていない者も多い。そのため、機械的に板書を書き取ることのできる、ワークシートを配布している。本稿は、事例を多く扱ったこともあり、ワークシートに余裕がなかったが、今後は、少し余裕を作りたい。ただし、ワークシートを複数枚配布したとしても、学生が目を通す可能性は低い。そのため、内容を集約したワークシートを作成することは、今後も心がけたい。

三つ目は、「授業内容を軽減し、子ども理解を実体験させる時間が欲しい」という意見である。本稿は、子ども観察の方法を理解し、次の実践へつなぐ時間であった。そのため、学生自身の体験はほとんどなかった。今後の授業計画の周知に問題があったのかもしれない。実践するまでには、その土台作りと型を身につけ、「真似」ができるようになることが必要だと考えている。

6. おわりに

授業者は、実習関係の授業を担当し、学生たちには、「子どもの興味関心、発達段階を踏まえた保育が必要」と伝えている。これは、大学においても同じだと考える。そのため、学生の実態を踏まえることから始まる。保育学科の学生へは、専門的知識を指導する前に、静粛な環境を保つよう授業者が誠心誠意取り組むことから始まる。ここを怠れば、内容豊かな授業をしても、学生には通じない。大学という場で、このようなことに力を注ぐことへの迷いがないわけではないが、やはり必要性を感じている。春日の里の知恵袋－保育学科のティーチングティップス－の内容が後押しとなった。

また、学生とともに、保育現場を赴くことが多い。この共通の経験が、授業時の具体的説明となり、子ども研究へのよいつながりとなっている。学生には、本授業がいかに関心を持って実践に必要なことを、具体的に体感させることを今後も心がけていきたい。

本稿の最後に、研究授業にご協力いただいた受講生（保育学科1年次生）、ご参観いただき、授業検討会や参観記録で貴重なご意見をいただいた教員の方々、さらには今回の授業を録画記録するにあたり、ひとからならぬご尽力を頂いた高橋英武氏をはじめとする教員養成コンソーシアム四国の方々に深謝の意を示す。

<資料：第6講指導案>

子ども研究 第6講 指導案
子ども理解の方法-エピソード記録を用いて-

田中 弓子

本時のねらい

- ・エピソード記録（個人記録）作成および子ども理解における基礎（子どもの個別具体行動、保育者の影響（動き）、考察）を学ぶ。
- ・観察記録と個人記録の役割を理解することを通して、教育実習および保育実習の日記作成に役立つ力を身につける。

	活動内容	指導上の留意点
10：40	○前回学んだ観察参加実習記録を振り返り	・観察記録を見て、観察記録の役割を振り返る
10：50	○観察記録とエピソード記録 ・それぞれの記録の役割を学ぶ ・保育実習日誌および教育実習日誌の個人観察記録を見る	・前回までに学んだ観察記録とエピソード記録を比較し、それぞれの記録の役割を視覚的に理解できるようにする。 ・実習日誌を提示することで、本時の学びが実習および実践において重要であることを伝える。
11：10	○エピソード記録の効果 ・エピソード記録例を見ながら、効果をまとめる ・第2講（自身を振り返ろう）とエピソード記録の関連を知る	・1つの例を読み、学生がエピソード記録の中身を漠然とではあるがイメージできるようにし、解説を加える。 ・第2講の学びを振り返ることで、保育者の影響が子ども理解に関係することを改めて学び、エピソード記録に活用できるようにする。
11：25	○エピソード記録の共有	・今後の予定を伝える。
11：35	○エピソード記録作成上の注意 ・記入上の諸注意を知る ・エピソード記録の目的を再確認する	・個人情報の保護など、観察を行う上での注意事項を伝える。 ・子どもの個別具体行動、保育者の影響の記入などを伝え、子ども理解をするためのエピソード記録の目的を再確認する。
11：50	・事例をもとに、エピソード記録の記入方法を体感する。	・学生が実際に作成する際、戸惑わないよう、3種類の事例を提示し、記入して欲しい内容、学び取って欲しい内容を説明する。
12：05	○本時のまとめ	・エピソード記録の作成の確認 ・次講に向けて

準備物：エピソード記録例、保育実習日誌、教育実習日誌

<資料：ワークシート（学生配布時、両面印刷）>

子ども研究

子ども理解の方法

-エピソード記録を用いて-

1. 観察記録とエピソード記録

エピソード記録 記入例

：〈ほく「疲れた」って言わなかったよ〉

〈背景〉

4月に入園した4歳児のYくんは、母、祖母、叔母との4人暮らしである。とても活発で明るい面もあるのだが、依存心が強く、すぐに頼ったり、あきらめたりする事が多い。家族は「甘やかしすぎてしまったので」と心配しており、その心配がYくんにも伝わっている様子。以下は、4、5歳児で園外保育に出かけた際のYくんの姿である。

〈エピソード〉

入園して1ヵ月が経った5月のある日、4、5歳児で少し距離のある公園まで散歩に出掛けた。Yくんは新入園児であり、まだ長い距離を歩く経験が少ないのでは……と考え、列の先頭にし、様子を見ながら散歩に出掛けることにした。園外へ出掛けるという期待で、いつもよりもお喋りが弾むYくん。進行く人に元氣よく挨拶をしたり、止まってくれた車に率先してお礼を言ったりと、普段の引っ込み思案な様子うかがえないほどの積極性を感じる。園に戻るまで1度も甘えることなく、お友だちと会話したり、歌を歌ったりと楽しんだ様子のYくんであった。

園に戻り、他の子どもたちと「～が楽しかったね」「また行きたいね」と散歩での出来事を振り返っていると、Yくんが満面の笑みで保育士の元へ駆け寄り、「Yね、「疲れた」って言わなかったよ」と、一言感想を伝えてくれた。それを聞いて、お母さんのことが頭に浮かんだ。「買い物に連れて行っても、少し歩いただけですく「疲れた」って言うんですよ……」。私が「たくさん歩いていろんなものを見て楽しかったね～」と返すと、「うん。疲れなかった～」と返すYくん。そのことばで、Yくんの「疲れなかった」は「楽しかった」の意味であることがはっきり分かった。

〈考察〉

今回の園外保育を通じて、散歩への喜びもあってか、いつもとは違うYくんの姿を見ることができた。本来のYくんはこうであるのかなと感じる中で、Yくんの「疲れた」って言わなかったよ」ということばに大きな意味が込められていると感じる。家庭では、大人に囲まれ、大人のリズムに合わせて生活しているYくんだが、お母さんに買い物に連れていかれることはYくんの望んでいることではないのではないかと。なので、少し歩いただけで「疲れた」ともらすのでは？と考えたのである。今回の散歩は、Yくんの興味・意欲などが高まった活動であり、主体的な活動も多かったため、疲れることも忘れるほど、楽しんだ活動であったのではないかと思う。その後のYくんに、少し変化が見られ、いろんな事に挑戦する姿が見られるようになっている。

保育者ためのエピソード記入例

2. エピソード記録について

(1) エピソード記録の効果

(2) エピソード記録の共有

(3) エピソード記録 作成上の注意

3. 記録の書き方

事例を参考に

学籍番号 ()

氏 名 ()

例1 「ダメに隠されたKちゃんの優しさ」

<背景 (普段の様子) > 4歳児

Kちゃんとはとても明るく活発でいつも元気いっぱい、友達にもやさしい。聴音の時間には、隣の子と話をしたり、そわそわした様子が見られるときもある。以下は、お遊戯会の練習でのKちゃんの姿である。

<エピソードを取り上げる理由>

Kちゃんの優しい一面と、少しお姉さんになっている姿を見ることができ、うれしかったから。

<エピソード>

お遊戯会の練習時間で、お互いの練習を椅子に座って静かに見る態度を養うのが目標であった。Kちゃんのクラスが練習しているとき、3歳児のクラスの子どもたちが来て、お互いの遊戯を見ることとなった。まずはKちゃんのクラス、3歳児に空いている席に座るよう保育者が声をかけた。そのとき、Kちゃんの両隣の席は空いているので、Kちゃんは「ここはダメ」と言って席を譲らない。私は、「どうぞって譲ってあげよう」と声をかけたが、Kちゃんは下を向いたまま頑なに席をゆずらない。そのうち、3歳児の保育者が、「Kちゃんは優しい子って聞いたよ」「先生が褒めるよ」といろいろ声をかけているうちに、保育者が3歳児に席を座らせた。

その後、うっかがわってKちゃんは、静かに遊戯を見ていた。全て見て終わり、3歳児が帰るとき、Kちゃんはおもむろに席を立ったかと思うと、両隣の子が3歳児に「バイバイ」と言っていた。私が「バイバイしてきたの」と聞くと、うれしそうに「うん」と言って、新しい友達ができたことを喜んでるように見えた。

<考察>

Kちゃんが席を譲らなかった理由を考えると、両隣の席は、Kちゃんの仲良しの友達だった。きっと、仲良しの友達の席がなくなるとして「ダメ」と言ったのだろう。もっと私が、席を譲らない理由を聞き、Kちゃんの行動の理解を努めてあげればよかった。このままでは、Kちゃんがそのまま子で終わってしまった。子どもたちは、言葉が足りないことがあり、私たちが理解してしまうこともあるので、子どもの発言の裏にある真意に気付く必要があると改めて思った。

<資料：参考資料（学生配布時、両面印刷）>

子ども研究 子ども理解の方法 資料

観察記録	時間	幼児の活動	保育者の援助(実習生の行動)	環境構成準備等
	8:30	<ul style="list-style-type: none"> ○履き履き下ろす 所持品を片付ける 椅子カバーをかける 椅子の道幅を測る 足跡、戸外：砂道幅、園庭道具 スケーターパビ 片付けをする 排水溝を拭く、うがいをする 	<ul style="list-style-type: none"> (一人一人に笑顔で明るく挨拶を) (健康状態を確認する) 園の広さを確認し、連絡事項を確認する (安全面に注意しながら園庭に出て子どもと遊ぶ) (元気に場所に行き戻ると戻ると) ようにする 清潔にし、健康状態を保つ。 よめる 	
	9:45	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の集まりに参加する 歌をうたう 「おはよう」の歌をうたう(=) 朝の挨拶をする 日付を確認する お名前呼を受ける 登園方法を確認する 当番報告をする 脱音をする ピエロの吹く 	<ul style="list-style-type: none"> 全員朝のうたを待ち、そろそろ活動場をつくります 全員揃って歌を歌い、挨拶をすることで、クラス一団感をつくり、楽しく日が始まるようにする 休み明けで、新しく子ども(園児)を、期待を待ち、過ごせるようにする 自分の思いや友だちには伝えたいことをSW(紙)を使って書き表すように誘導する 年中して観察とよめることができる ピエロの吹くは、連絡事項を 	

エピソード例

例2 「カオスもと言ったから」

<背景 (普段の様子)> 5歳児
 Kちゃんは責任感が強く、当番活動にも積極的に参加し、最後まできちんと取り組んでいる。先生に認められるとニコニコ笑い、自分の感情をうまく表現している。なかなか攻めの輪の中に入っていくことはできないのだが、話しかけられるととても楽しそうに遊んでいる。

<エピソードを取り上げる理由>
 子どもの変化が分かったこと、保育者のことば一つひとつの大切さを学ぶように思ったから。

<エピソード>
 はじめての観察日、ねんど遊びのとき、Kちゃんはなかなか取り組むことができず、じっとしていたままだだったので、私は「なにこ作る？」と声をかけたが、Kちゃんにはなにもこたえずモジモジしているままだ。Sくんに「Kちゃんは恥ずかしがりややけん」と言われた。その後、そのまま見守り、Tちゃんに「お弁当作って」と言い、Kちゃんも誘うと一緒に作ってくれた。

4回目の観察では、絵を描いた。Kちゃんは何を書かか描んでいる様子だったが、思いつくように描き始めた。他の子どもの様子を見てから、Kちゃんのところへ行くと、リボンを描いていたので「カオスもね」と私が言うと、それからKちゃんはなぜかリボンばかりを紙いっぱいに描いた。理由を聞くと、「先生、リボンカオスも言ってくれたけん」と言われた。

<考察>
 Kちゃんはどんな活動にも一生懸命取り組んでいくからこそ、何をしようか悩んだり迷ったりしたのかも知れない。また、私の「リボンカオスもね」の一言で紙いっぱいに書いたKちゃんは、いつも保育者のことばをまっすぐ受け止めているのだと分かった。Kちゃんを、恥ずかしがりやとか、行動がゆっくりに捉えてはいけないと思いました。また、保育者の一言の影響力は大きいことが分かりました。カオスも以外にも、Kちゃんか成長できるような声かけもしたいです。

1. 対象とした子どもの情報

名前: _____ (性別: _____)

年齢: _____ 歳児クラス

2. エピソード: < _____ >

<背景 (普段の様子) >

[Empty rounded rectangular box for background information]

<エピソードを取り上げた理由>

[Empty rounded rectangular box for reasons for selecting the episode]

<エピソード>

[Empty rounded rectangular box for the episode description]

<考察 (子どもに対する考察と、実習生自身の反省) >

[Empty rounded rectangular box for reflection and observations]

研 究 紀 要

第56・57合併号

平成24年 2月25日 印刷

平成24年 2月28日 発行

編集発行 高 松 大 学
高 松 短 期 大 学
〒761-0194 高松市春日町960番地
TEL (087) 841-3255
FAX (087) 841-3064

印 刷 株式会社 美巧社
高松市多賀町1-8-10
TEL (087) 833-5811